

## オプトアウト用公開文書

### 研究名称

子宮腺筋症の子宮温存療法に関する検討

#### 1. 研究の対象

2007年1月～2017年12月までに近畿大学病院と大阪赤十字病院で子宮腺筋症と診断され、除外基準に当てはまらない124例

##### 【除外基準】

- ・ 症状を認めない症例
- ・ 治療前の画像検査が行われていない症例
- ・ 初診時に子宮全摘術を希望した症例
- ・ 過多月経の原因となりうる粘膜下筋腫や3cm以上もしくは3個以上の子宮筋腫を認める症例

#### 2. 研究目的・方法

子宮腺筋症は、過多月経や月経困難症など日常生活を害する症状をきたす疾患で、生殖年齢の女性に好発します。従来は、子宮全摘術を行うことで、根治治療を行ってきましたが、高年出産の増加や周術期合併症のリスク回避の目的で子宮温存療法の需要が高まっています。しかし、実際に子宮温存療法を行っても結果的に子宮全摘術を選択せざるを得ない女性が多く、治療選択に難渋しているのが現状です。子宮腺筋症には標準的な治療ガイドラインがなく、子宮温存療法の成功率に関する研究も今までありません。子宮温存療法を継続できる因子がわかれば、子宮温存を希望する女性に治療方針を提示することができます。

#### 3. 研究実施期間

倫理委員会承認後(2020年8月4日)から5年間

#### 4. 研究に用いる情報の種類

カルテより下記情報を取得します。

診断年齢、妊娠出産歴、症状、MRIもしくは経膈超音波検査での子宮の大きさ、子宮腺筋症のtype、合併症、内分泌療法の種類・期間、手術歴、子宮全摘術の有無

本研究は大阪赤十字病院との共同研究ですが、他機関への情報提供は行いません。また、情報の二次利用は行いません。

#### 5. 研究に管理について責任を有する者の氏名または名称

〈研究責任者〉近畿大学病院産婦人科 松村 謙臣

〈研究分担者〉近畿大学病院産婦人科 宮川 知保

近畿大学病院産婦人科 村上 幸祐

〈研究協力施設〉大阪赤十字病院 野々垣 多加史

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、患者様が特定できる情報（患者様氏名・カルテ番号）については削除され、匿名化されておりますが、あなたの情報を研究に利用する事を希望されない場合はお申し付け下されば情報利用する事を停止致します。情報利用を希望されなくても、あなたに不利益を被る事はありませんのでご安心下さい。

なお、本研究は近畿大学医学部倫理委員会の審査を受け、近畿大学医学部長の許可を受けて実施するものです。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所：大阪府大阪狭山市大野東 377-2

電話：072-366-0221 内線 3215

担当：近畿大学病院産婦人科 宮川知保